

PS08M



LC8H Utility Ver 2.x

取扱説明書



この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

安全上のご注意

- ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
- ◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、 死亡または重傷などを負う可能性 が想定される内容です
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、 傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生 が想定される内容です

- ◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

 禁止	このような絵表示は、してはいけない「 禁止 」内容です。
 強制	このような絵表示は、必ず実行していただく「 強制 」内容です。



警告

- ① **分解、改造をしない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ **金属類を差し込まない**
隙間などから金属類を差し込んだりしないで下さい。火災感電故障の原因になります。
- ⊘ **濡らさない**
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。
- ❗ **ACコンセントは確実に差し込む**
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ❗ **コネクターは確実に差し込む**
コネクターの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ⊘ **ACコードを傷つけない**
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。
- ❗ **異常が起きたときは**
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにACコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。



注意

- ⊘ **煙や湯気が当たる場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ **湿気やほこりの多い場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ **不安定な場所や振動の多い場所に置かない**
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。
- ⊘ **ACコンセントから抜くときはプラグをもって抜く**
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

目次

1. 概要	1
2. 設置について	1
本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。	1
3. 動作・設定	1
3-1. 電源投入	1
3-2. PC の設定	1
3-4. 編集ソフト	4
3-5. 初期設定	4
3-6. 接続	5
3-7. 編集—タブページ	5
3-8. 編集—メニュー	10
4. メモリ卓	11
4-1. シーンメモリ	11
4-2. シーン書き込み禁止	12
4-3. ミックス出力	12
5. 付録	12
5-1. 仕様	12

1. 概要

本機は、DMX512chの入出力を任意のチャンネルにパッチするパッチ機能と、シーンを記憶することが出来るシーンフェーダー機能を持っています。

- チャンネルパッチは専用ソフトウェア「LC8H Utility」(Windows)で行います。
- シーンは外部機器のDMX出力を取り込むか、「LC8H Utility」上で作成を行うことで、最大8パターン記憶することができ、本機のフェーダーもしくは、フラッシュボタンで出力することが出来ます。
- 「LC8H Utility」の設定により、外部からのDMXでシーンを呼び出す事も可能です。
- 書き込まれた設定内容は電源を切っても保持され、PCに接続しなくとも本製品のみで動作します。

2. 設置について

本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。

- 直射日光の当たる場所、周囲温度・湿度の高い場所、ほこりの多い場所での使用は避けて下さい
- DMX信号ケーブルは電源ケーブルと一緒にしないで下さい。またマイク等の小レベル信号のケーブルと一緒にするとノイズを与える可能性がありますので、できるだけ避けて下さい。
- ケーブル類の着脱は必ず電源がOFFの状態で行って下さい。
- 電源は定格以内で、変動やノイズの少ない物を使用して下さい。また調光ユニットの出力は絶対に使用しないで下さい。

3. 動作・設定

3-1. 電源投入

1. 全ての接続が終了したら、電源を差し込んで下さい。
2. 電源が入るとRECボタンの赤いLEDが数秒点滅します。

3-2. PCの設定

本機は、USB端子を使ってWindowsPCから設定を行い、設定を保存、読み込むことが出来ます。

ドライバーの設定

製品に付属しているUSBメモリーを、PCに接続し、メモリーの中にあるdriverフォルダーから『CDM2.XXXXXSetup.exe』をダブルクリックして、実行してください。

実行すると、ウィンドウが開き、自動的にインストールが行われます。

インストール終了後に、次のページで説明しますデバイスマネージャーで、COMポートの確認を行い、製品とPCを接続してください。


※ドライバーのインストールは、製品を接続して、ソフトウェアを立ち上げる前に行ってください。

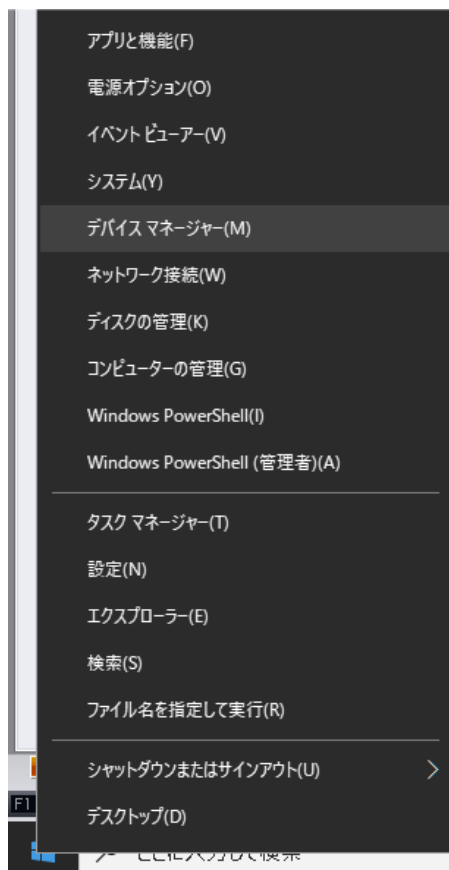
3-3. COMポート番号の確認

仮想COMポートドライバをインストール後、COMポートが何番に割り当てられているか確認します。
このCOMポート番号は変更する事も出来ます。

まず、本機をPCに接続して下さい。

Windowsのデバイスマネージャーで確認します

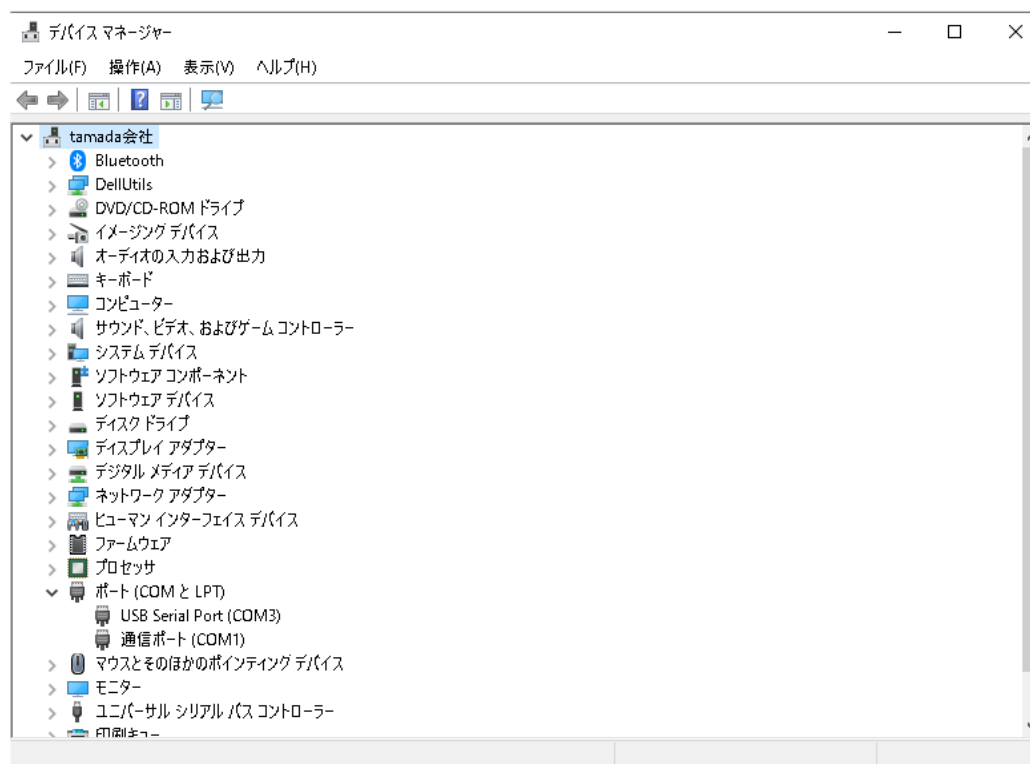
1.  Windowsマークを右クリックしてリストからデバイスマネージャーを選択します。



あるいはタスクバーの検索欄に入力しても呼び出すことが可能です



開いたデバイスマネージャーで「ポート (COMとLPT)」を開くとUSB Serial Port(COM X)と表示されています (下の画像の場合はCOM 3)



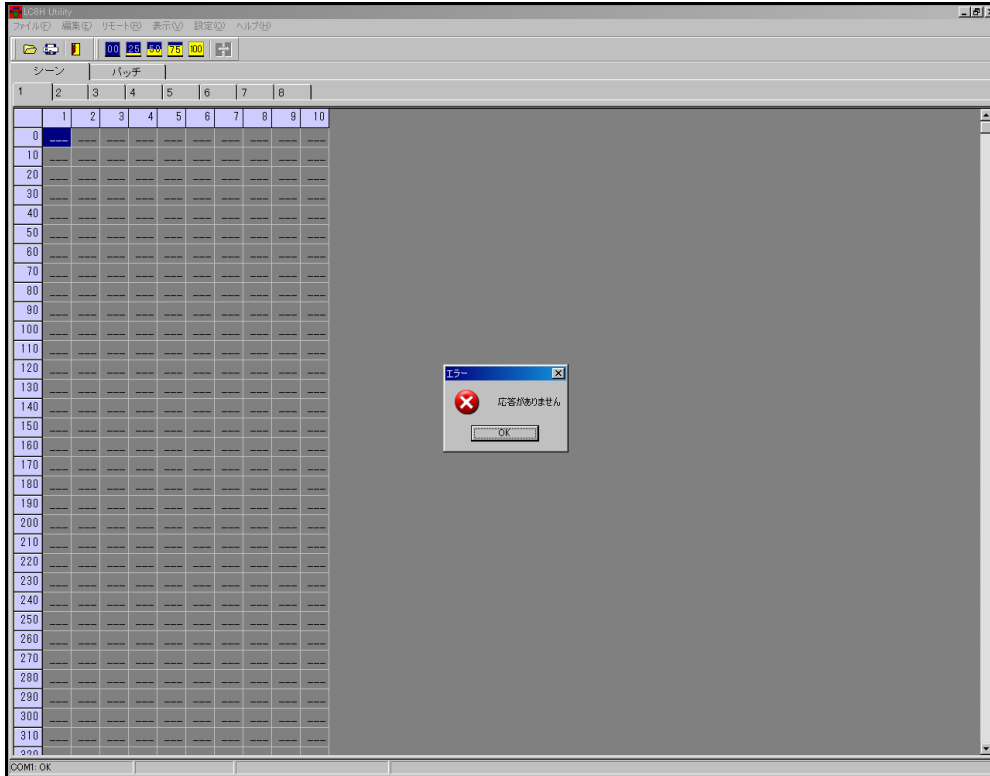
この一覧で、「**USB Serial Port (COM x)**」が、PS08Mに割り当てられたCOMポートです。COM番号を確認してください。

パソコンからは、このCOMポートへアクセスすることで、PS08Mと通信できます。

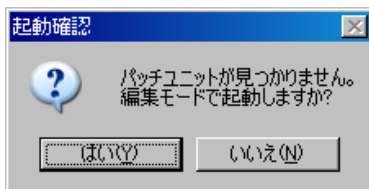
3-4. 編集ソフト

付属USB内のLC8HU+1フォルダーをPC内にコピーしてください。
LC8HU+1.exeを実行します。

本機とPCが繋がっていない場合や設定が正しくない場合は次の様なERRORが表示されます。



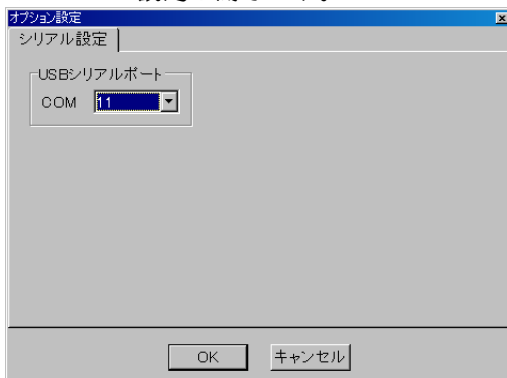
OKをクリックすると



編集モードで起動するか確認メッセージが出ます。
そのまま起動する場合は「はい(Y)」を選択します。

3-5. 初期設定

設定のオプション設定を開きます。



前ページ「COMポート番号の確認」で調べたCOMポート番号を設定します。

3-6. 接続

PCと本機をUSBケーブルで繋ぎ、[リモート]-[接続]を選択すると接続されます。
PS08Mに記憶されているシーンの内容が本機から読み込まれ、シーンページのテーブルに表示されます。また、パッチデータも同時に読み込まれます。

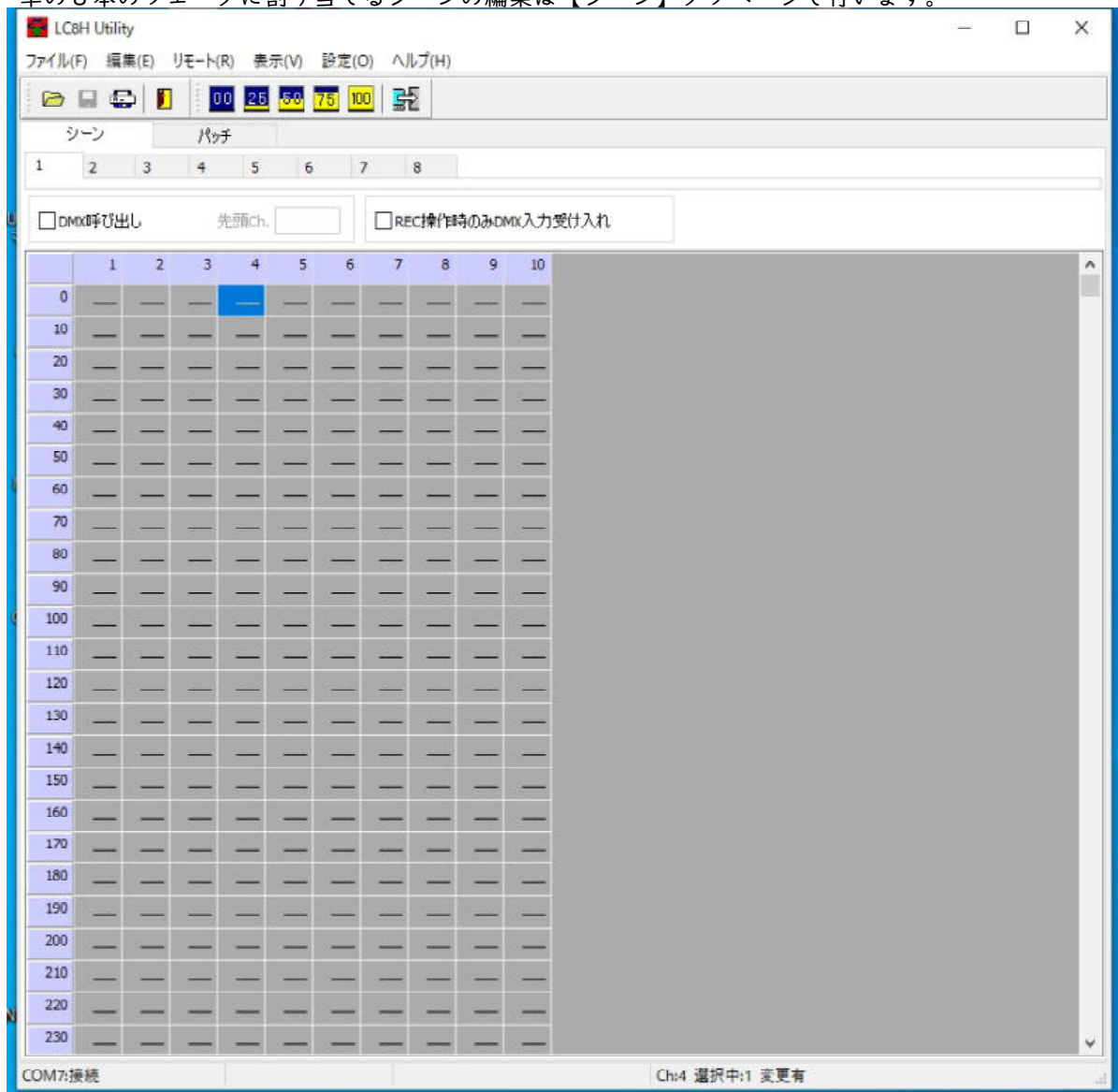
3-7. 編集タブページ

本製品の設定や編集は「LC08M Utility」のソフトウェア上で行い、画面のタブで項目を切り替え、それぞれの必要な設定を行います。
画面のタブには、シーン・パッチ があります。
設定が終了したら、それぞれのページの書込ボタンまたはリモートメニューの「書き込み」によって、本体ユニットへの書込を行ってください。
またファイルメニューによって、設定内容をファイルに保存したり、既存のファイルから読み込んで利用することもできます。

次のページより、実際のソフトウェア上の設定について上記に記載したタブ事に説明致します。

3-7-1. シーン

卓の8本のフェーダに割り当てるシーンの編集は【シーン】タブページで行います。



タブ1～8で編集したいシーンを選び、チャンネルを選択して、キーボードで数値を入力するか、ツールバーの設定ボタンを押してください。



キーボードによる数値入力の場合、“FULL”、“FUL”、または“FF”と入力しても、フル（100%、255）となります。またDeleteキーでも0となります。チャンネルを複数選択して、一括で設定することもできます。対象範囲はマウスドラッグか、あるいは先ず1個のチャンネルを選択し、続いてShiftキーを押しながらその前後のチャンネルをマウスあるいはカーソルキーで選択してください。またCtrlキーを押しながらクリックすると、そのチャンネルが追加選択されます。

なお、表示メニュー100段階（%）表示、256段階表示によって、レベルの表示形式を切り替えることができます。

変更した内容はすぐに卓へも伝えられ実際の出力に反映されます。しかし、この段階では卓内のメモリにはまだ書き込まれていません。卓の電源を切ってもシーン内容は保持されるようにするためには、シーン書き込みボタン（リモートメニューからも可）を押してください。

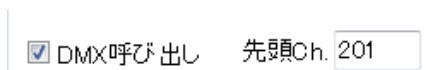
3-7-1-1. DMX呼び出し設定（ファームver2.1以降）

PS08M本機を接続した状態で、ソフトウェアを起動した場合、シーン入力画面上部に次の様な、設定バーが出てきます。



これがDMX呼び出しの設定画面です。

設定方法は、DMX呼び出しのボックスをクリックして選択して、右側の先頭Chに呼出に割り当てるDMXチャンネルを、入力してください。



設定を行うと、先頭Chから8チャンネルがシーン呼び出しのチャンネルに設定されます。

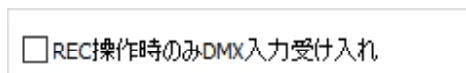
これにより外部機器からの、DMX入力でシーンを呼び出す事が出来ます。

設定を解除する際は、DMX呼び出しのボックスをクリックして、チェックを外してください。

なお、この設定は、入力に変更される事に、本機に書き込まれます。

3-7-1-2. REC操作時のみDMX入力受け入れ設定（ファームver2.2以降）

PS08M本機を接続した状態で、ソフトウェアを起動した場合、シーン入力画面上部に次の様な、設定バーが出てきます。



これが設定画面です。

設定方法は、写真のボックスをクリックして選択してください。



設定を行うと、REC操作のときのみDMX信号が、PS08Mに入力されます。

このためDMXINの信号は、DMXOUTに出力されません。（*4-3. ミックス出力が使用できません）

REC操作は通常通り行えますので、RECデータは各シーンに書込み、記憶シーンの操作は可能です。

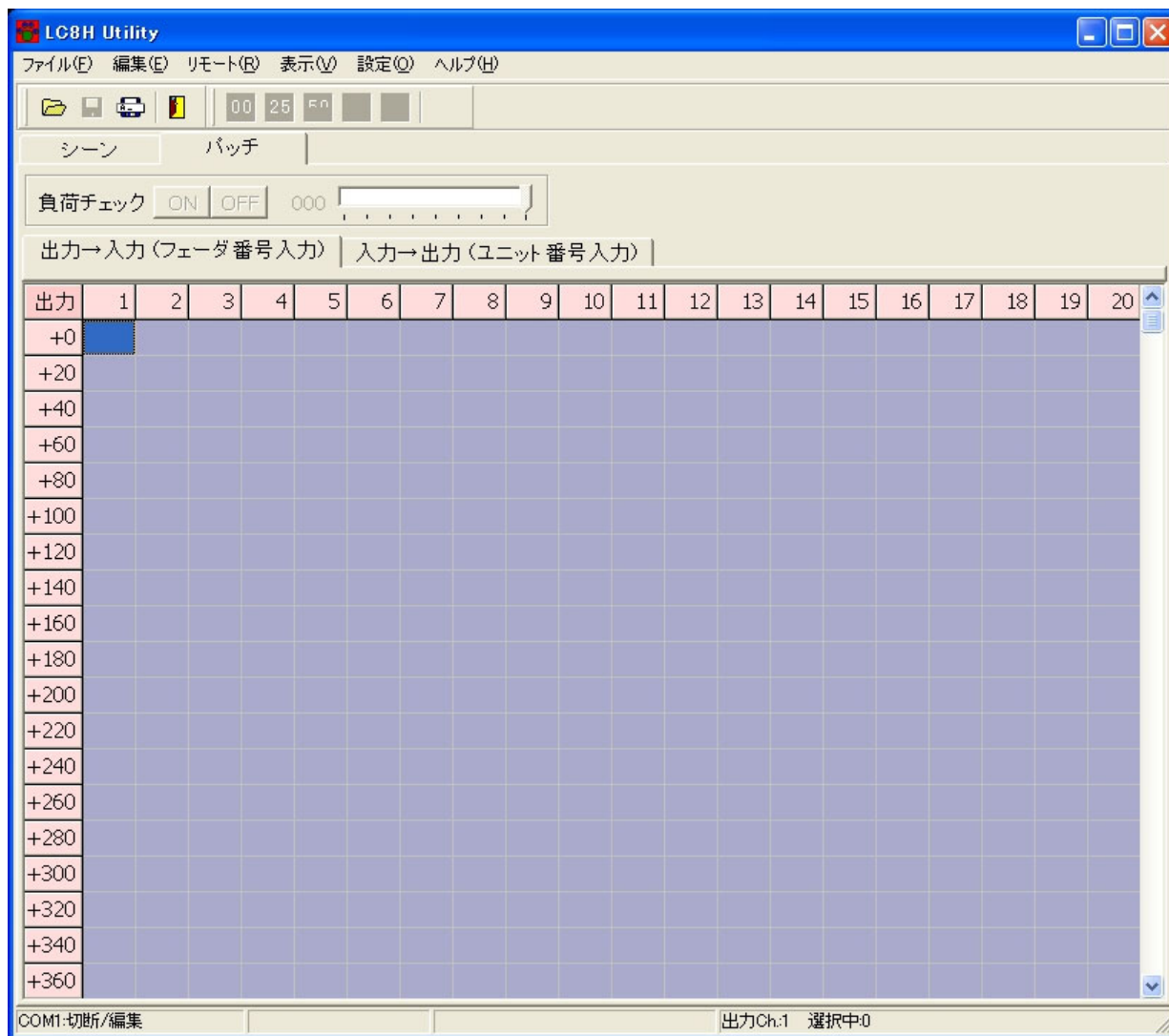
設定を解除する際は、写真のボックスをクリックして、チェックを外してください。

なお、この設定は、入力に変更される事に、本機に書き込まれます。

3-7-2. パッチ

パッチ編集操作は、【パッチ】タブページで行います。

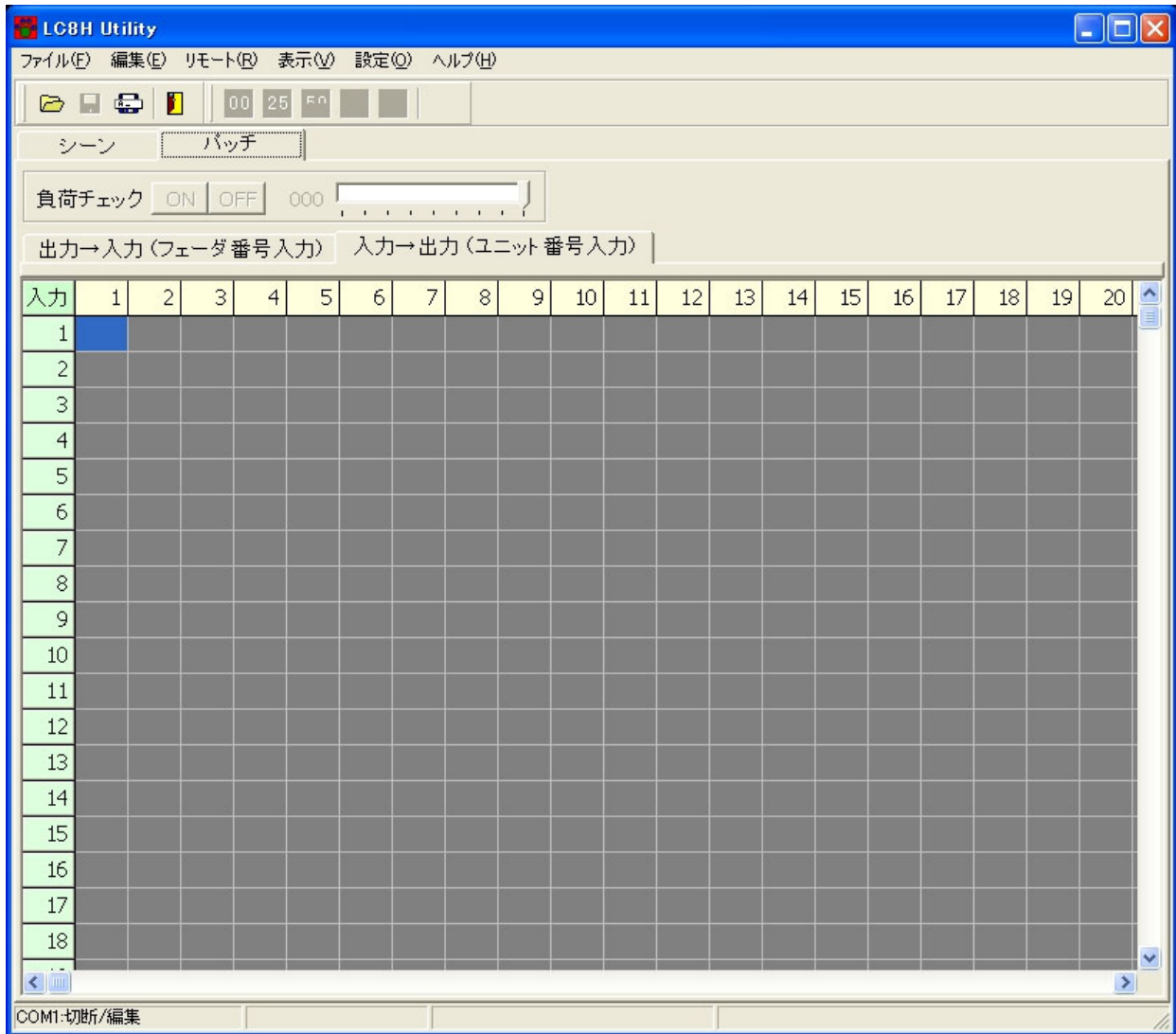
パッチテーブルの表示形式には、出力→入力および入力→出力モードがあり、表示メニューでいつでも切り替えることができます。



出力→入力モード

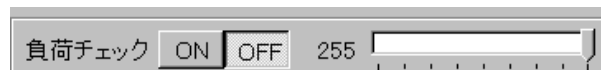
出力→入力モードの場合、選択した出力チャンネルのセルに、割り当てたい入力チャンネル(フェーダNo.)を入力してください。接続を解除したい場合は、Deleteキーを押すか、右クリックメニューの「接続解除」を選びます。またFULL (FUL, FFでも可)と入力すると、常時フルONとなります。

複数のセルを選択すると、一括して接続・解除あるいは右クリックメニューから連番チャンネル設定を行えます。対象範囲はマウスドラッグか、あるいは先ず1個のチャンネルを選択し、続いてShiftキーを押しながらその前後のチャンネルをマウスあるいはカーソルキーで選択してください。またCtrlキーを押しながらクリックすると、そのチャンネルが追加選択されます。



入力→出力モード

入力→出力モードの場合、選択した入力チャンネルのセルに、割り当てたい出力チャンネルを入力してください。この際、” ” , ”や ” - ”を使うことにより複数のチャンネルを一度に設定することも可能です(例: 1,2 、5-10)。



チェックONボタンを押すと、出力チェック機能が有効になります。テーブルで現在選択されている位置の出力チャンネルに対して、レベルスライダーで設定されている値が強制的に出力されます。OFFボタンを押すと、出力チェック機能が解除され通常動作に戻ります。

変更した内容はすぐにパッチユニットにも伝えられ実際の出力に反映されます。しかし、この段階ではパッチユニット内のメモリにはまだ書き込まれていません。パッチユニットの電源を切ってもパッチ内容が保持されるようにするためには、書込ボタン(リモートメニューからも可)を押してください。

3-8. 編集メニュー

ソフトウェアのメニュー一覧をメニュー項目事に説明致します。

3-8-1. ファイルメニュー

現在開いているタブページに応じて、以下のようなメニュー項目が表示されます。

- **全ページ共通**

- **終了**

プログラムを終了します。

- **【シーン】 ページ**

- **シーンデータをファイルから読み込み**

あらかじめ保存してあったシーンデータ・ファイル(.dat)を読み込んで、卓に転送・書込します。

- **シーンデータを上書き保存**

シーンデータを上書き保存します。

- **シーンデータに名前を付けて保存**

シーンデータに名前を付けてファイル(.dat)に保存します。

- **【パッチ】 ページ**

- **パッチをファイルから読み込み保存**

あらかじめ保存してあったパッチ内容ファイル(.pat)を読み込んで、卓に転送・書込します。

- **パッチデータを上書き保存**

パッチデータを上書き保存します

- **パッチに名前を付けて保存**

パッチに名前を付けてファイル(.ptl)に保存します

3-8-2. 編集メニュー

- **【シーン】 ページ**

- **現在のシーンをクリア**

現在編集中のシーンををクリアします。卓のメモリ内容も同時にクリアされます。

- **全てのシーンをクリア**

シーン1～8を全てクリアします。卓のメモリ内容も同時にクリアされます。

- **【パッチ】 ページ**

- **パッチ解除**

選択中のチャンネルのパッチを解除します。

- **パッチをクリア**

パッチの内容をクリアします。卓のメモリ内容も同時にクリアされます。

- **1対1接続**

1～512チャンネルを1対1接続します。卓のメモリ内容も同時に変更されます。

- **連番チャンネル設定**

出力→入力モードにおいて、選択中の複数の出力チャンネルに対して、指定した先頭入力チャンネルから連番でパッチを設定します。

3-8-3. リモートメニュー

- 全ページ共通

- 接続

- 何らかの原因により卓との接続が切れてしまった場合、再接続を試みます。

- 【シーン】 ページ

- シーン書き込み

- 変更したシーン内容を卓のメモリに書き込みます。

- 【パッチ】 ページ

- パッチ書き込み

- 変更したパッチ内容を卓のメモリに書き込みます。

3-8-4. 表示メニュー

- 【シーン】 ページ

- 横幅：nn

- テーブルの横方向のチャンネル数を指定できます。

- 100段階（%）／256段階表示

- レベルの表示を、100段階（%）または256段階に切り替えます。

- 【パッチ】 ページ

- 横幅：nnCh

- テーブルの表示形式が出力→入力モードの場合、この項目を選択できます。
テーブルの横方向のチャンネル数を指定できます。

3-8-5. 設定メニュー

- オプション設定

- USBシリアルポート

- パッチユニットとの接続に用いるUSB COMポートを選択します。

4. メモリ卓

4-1. シーンメモリ

本製品は3章で説明した、ソフトウェア上でのシーン編集だけでなく、DMX出力を持つ他の機器と接続して、シーンを最大8パターン記憶することができます。

記憶を行う手順は、以下のように行います。

1. 本製品に、DMX出力を持つ他の機器のDMXOUTをDMXINに接続します。
2. DMX出力機器から記憶させたいシーンを出力させます。
3. 本製品のRECボタン（LED付の赤いボタン）を押しながら、記憶させたいシーンフェーダーのフラッシュボタンを押します。
ボタンを押すと、RECボタンのLEDが点滅し、ボタンを離せば記憶することができます。

4-2. シーン書き込み禁止

書き込みを行ったシーンフェーダーに、誤って記憶されることを防ぐために、RECボタンを無効にする機能です。

書き込み禁止の設定は、以下のように行います。

1. 本製品の電源が入っていない状態で、RECボタンを押しながら電源を入れます。
 2. RECボタンのLEDが点滅し、ボタンを離せば設定は完了です。
- 設定の解除は、上記の動作を再度行えば、解除することができます。

※1 シーン書き込み禁止設定は、RECボタンのみ押すと確認が出来ます。
ボタンのLEDが点滅すると設定ONになっており、シーン書き込みできません。

※2 書き込み動作の禁止は、RECボタンを使用できなくするもので、この状態でも、ソフトウェアからのシーンの書き込みは可能です。

4-3. ミックス出力

本製品は、8シーンフェーダー付デジタルパッチシステムです。

そのため、入力されたDMX信号をパッチを行い出力するだけでなく、出力信号に記憶しているシーンをミックスして出力することができます。

*3-6-1-2の設定を行っている場合は、この機能は使用できません。

5. 付録

5-1. 仕様

入力 DMX コネクター 信号形式	ノイトリックXLRタイプ5P DMX512
USB コネクター	USB2.0 Type-B
出力 DMX コネクター 信号形式	ノイトリックXLRタイプ5P DMX512
電源 定格電力 外寸	AC90～240V 50/60Hz 10W W:270 H:67 D:185 (突起部除く)
動作温度、湿度	0℃～50℃、10%～85% (結露無し)

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい。

(本書製作日2025年9月5日)